

高退協ニュース

高退協事務局

54年8月

No. 2

- 1 輝やける先達として
- 2 紅葉の季節
- 3 退職八年
- 4 歩きませんか！
- 5 事務局より

残暑お見舞

申しあげます

高退協事務局

輝やける先達として

衆議院議員 山原健二郎

ながいこと教壇に立たれ、戦後の苦難の教育活動を耐えぬいてこられた退職の先輩のみならず、任んとしてごろうさまでした。

戦後、民主教育確立をめざして立ち上ったあの燃えるような息吹を思い出します。筑野が原に学校を建て、破れた靴下をはいて集い合ひ、論じ合ひ、組合を作り、そして響いかかる進歩の嵐と九十九かた道程が目に見えかびます。

いままた「君が代」の国歌化、勸学札賞、A級戦犯合祀、有事立法などキナ臭いにおいがたちこめはじめました。教壇を去っても放っておくわけにはいかない時勢となりつつあります。

このあいだ、高教組が中心となつて行われた「高知空襲展」は異常な反響をよびましたが、初心をなれることなく、ともに「平和と民主主義」の確立のため奮闘しよるではありませんか。

政府は大型増税計画をたて大取巻をたくらんでいます。油問題で諸物価は高騰をはじめました。これが年金生活者などにどれほど大きな打撃になるかはかりませんが、こうしたなかで政治決戦も近づきました。

英なす心もやして

梅雨あけの

灼熱の陽に

真向かいゆかん

(一九七九・七・二九)

紅葉の季節

南州市岡豊町 杉本恒星

長曾我部元親が、秀吉の命にこらえて朝鮮へ遠征したとき、一人の婦女を連れて来たという。その人の墓が、五年前に大方町でみつかった。その五年祭をするというので、朝鮮総連の陳さん、朝鮮問題研究会の会長門田豊、事務局長の内田長雄氏と一緒に、参加した。大方の町長や前教育長など、福多からも三十名ほどの出席があり、五百年ほど前の話を、思い出すように語った。その後で乾杯ということになり、私は浜田教義さんと同席することになった。浜田さんの高深な人格、その学識はかねてから尊敬していたので、話がかはずんだ。そのとき「大形」という冊子をもらったので、ばらばらとめくったところ、「青宮と兼平」と言う教義さんの詩が最後の頁に印刷されていて、読んで私は驚いた。やがて感嘆した。

君や来し吾や行きけむおもほえず夢かうつつかねてかきかめての青宮の相問の歌を、芯にして、涙の涙とした情感と愛の讃歌、枯淡に清く清く教義さんの心の底深く秘められていた、男のものあわれである。勸学斗争で大樹の如くみじろぎ一つしなかつた鉄の心の美しさは、ここにあったのだと思つて、心で深々と頭を下げた。

その後渋谷会長が福多にいて彼に逢つて談話したと聞いて、又なつかしく思つた。渋谷氏はその時、井上道子さんにも逢つて来たと話した。この人の名前も私にとっては忘れ難い。あの暖いさなかで、病氣にたをれ、やがて職を引かれたが、さわやかな気品のある微笑をくづすことのない美貌であった。その人が、今中村の高台に居をかまえて、風雅な日を送つておられるという。渋谷氏の話を聴きながら、できることなら、月の夜、その居を訪れて、昔を語りたいものだと思つた。その時、私は青宮の歌に答えた、兼平になつて

退職八年

福多郡大方町 浜田教義

渋谷会長から「何か書け」と仰せつかったのでペンを執つた。これが現役ばかりで書くのであれば、感懐のよいことを並べることが出来るのであるが、まづ退職という序の詞が入ると何となく張り合ひがでない。隠居役としての哀感は何ういふべきでもない。「弱氣になつちやあいつない」と気を取り直して書き初める。

退職後八年、町長になろうとしたり、教育長になつたり、教育畑では味つたこともない大汗をかいた。七十才までは世間への御奉公をやろうと思つてはいるうちにいつの間にか教員年七十才になった。今となってはアツという間の夢としか言ひ様がない。人生の縮図を更に拡大した短い八年であつた。古稀を境に自分の人生の開始末をしておきたいと考へ、二年間断り物になつていた福多地区同和教育研究協議会会長の椅子もおろしてもらひ、現在の肩書きは大方町文化振興会長たゞ一つ、これも満七十才になれば下りる予定である。

本業の蜜柑作りは半日と決め、後は方言の研究と、大方町公民館文学々級の世話役。隔月一回機関誌「大形」を発行し、その編集をしてはいる。然し結社にはどこへも加入してはいない。自由創作自由で書くのがわたしの創作態度である。そのせいか一向に進歩しないらしく、歌会や句会での批評はかんばんしなくない。然し自身はこのただごと歌が後世に残る作品であると自負しているからいい気なものである。

歩きませんか！

須崎市新町 岩井良水

みなさん、歩きませんか。私はできるだけ歩くことにしています。それはどういふことかという、勿論体の健康のためはいうまでもありませんが、歩くことは心のためといふか、魂のためといふたらしいだろうか、とにかく何とも言えなくらい気持ちのいいものですね。

車社会の今どき、こんなことを言うとは笑うかも知れませんが、車社会だからこそ、その現実からはなれて私は歩くのです。

あの横浜黒潮ラインも、蒲ノ内から宇佐まで歩きました。斗賀野峠を歩いて越えました。安和から久礼までの海岸通りもずっと歩きました。そればかりでなく、虚空蔵山えも、桑田山えも歩いて登りました。そして美しい眺めを眼下に飲む一杯の酒のうまさ、まさに甘露々です。

これからも大いに歩くつもりです。それも若き日、元氣はつらつと歩いた道を再び六十才の青春をかきかたかきかた、ゆっくり、ゆっくり歩いて行くのです。

そこには夢があります。ロマンがきらきらしています。いつか私はタイムトンネルの入口まで歩いて行くでしょう。どうです、みなさん、いっしょに歩きませんか。

事務局より

第八回全国退職協聯会が去る七月十九日、東京、日本教育会館で開催されました。

その中で特に会員のみなさんに、かゝりのある事項についてお知らせします。

- ① 平和憲法、民主主義を守るため、政治の反動化、腐敗政治に反対して闘います。
- ② 老人医療制度充実のため、医療費の無料化の拡大を要求する。
- ③ 年金に對する課税を漸減すること。
- ④ 公立学校共済組合短期給付の適用組合員としての任意継続組合員期間の改善をはかること。
- ⑤ 国民健康保険の給付の改善と掛金の引き下げをすること。



◎ 会費(年間一、〇〇〇円) 未納の方は事務局まで送金して下さい。